

令和元年度 埼玉私学振興大会

日 時 令和元年11月28日(木)

会 場 大宮ソニックシティ 大ホール

中高協会と保護者連の共催での振興大会は今年13回目の年を迎えた。

県内各地から学校関係者・保護者約2,500名の参加があり、県行政・県会議員の先生方等のご来賓を多数お迎えし、熱気あふれる大会となった。

当日は、大会決議案が採決され、決議文を知事及び県会議長に渡した。

その後、叡明高等学校ダンス部と狭山ヶ丘高等学校の吹奏楽部の生徒発表があった。

参加校生徒のダンス演技と吹奏楽は、参加者を魅了し、振興大会に花を添えるにふさわしい発表だった。2校の生徒の皆さん熱演ありがとうございました。



振興大会壇上風景

大会決議

県政、ならびに国政各方面の方々の、ご努力、ご尽力によって、学校教育に要する経費が、私立学校においても、標準世帯については、国費で負担される時代が到来した。

さりながら我々は、これまで、本県における、父母負担軽減措置が、県内私学の、存続、発展に寄与した、大きな役割を忘れることができない。改めて、県政、県行政の方々の、ご支援、ご尽力に、深く感謝申し上げる次第である。

今日、県内私学は、スポーツ、文化、進学等、多くの面において、輝かしい実績を重ね、埼玉県教育の発展に、大きな足跡を残している。

このような成果は、県私学関係者の懸命の努力と共に、県政、県行政の、深甚なるご支援、ご協力の賜である。

また、今日に至るプロセスで、我が埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会と埼玉県私立中学高等学校協会が、固い連携の元に果たした役割も、小さなものではなかったと、確信する。

さて、父母負担軽減措置の相当部分が、国費によって肩代わりされるという歴史的成果を前にして、我々は、県政に携わる方々の、これまでのご支援、ご指導に深く感謝申し上げますと共に、更に以下の点で、ご指導、ご協力をお願い申し上げます次第である。

ところで、父母負担軽減措置は、学納金に関する保護者の負担を軽減するものではあるが、必ずしも、私立学校の財政状況を好転させるものではない。

私立学校の運営は、授業料、その他の学納金と共に、県から支給される運営費補助金に大きく依存している。

公立学校が、その設立から維持、人件費に至る、すべてを、公費に依存しているのとは大きな違いである。

教育への、情報機器の導入をはじめとして、教育全体の抜本的変革が強く求

められている今日、県から支給される、運営費補助金の増額は、決定的に重要である。

これまで支給されてきた、年間約20億円に達するという、莫大な父母負担軽減措置が、国費によって支弁されることが明らかになった今日、我々は、その全額が、私立学校の支援策として活用されることを、強く要望する。間違っても、その一部が、県一般予算に吸い上げられる等と言うことは、絶対にあってはならない。

我が埼玉県は、人口七百万を超える、国内有数の大県である。その「大埼玉」は、生徒一人当たりの運営費補助金において、大県たるに相応しい水準を保たなくてはならない。

教育を決するものは、金だけではない。保護者の愛と熱情、教師の献身的な努力こそ、その決定的要因である。それを熟知する我々は、家庭、学校の固い連携の下に、今後一層、努力し続ける事を誓うが、県政、県行政におかれても、私学への公費助成が革命的に改善、変革される今日、この機を逃すことなく、運営費補助金を、抜本的に改善し、「大埼玉」の存在を、天下に示して下さる事を、強く強く要望する。

大埼玉である。運営費補助金を、大県たるに相応しい水準まで高めよ！！

以上 決議する。

令和元年11月28日

埼玉県私学振興大会